

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「ひびきあい」
○自ら学び、自ら考え、つくりだす力を育てます【知】
○お互いに認め合いながら、共に伸びていこうとする態度を育てます【徳】
○たくましい心と健やかな体を育てます【体】
○社会とのかかわりを大切に、共に生きる態度を育てます【公】
○さまざまな変化に柔軟に対応できる力を育てます【開】

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

・自ら学び、自ら考え、行動する力
・他を認め、協働して課題解決をする力
・社会とのかかわりを大切に、共に生きる力
・思いや考えを表現する力⇒思いや考えを伝えあう力⇒考えを出し合って新提案する力
・相手の思いを受け止めて聞く力⇒互いの考えの違いへの気づき⇒伝え合うことで自分の考えを深化させる力
・身近な地域への愛着⇒地域を愛する気持ち⇒地域に貢献する気持ち

中期取組目標

○多様な人との出会いや学び合いの中で、お互いの思いや考えのよさや違いを感じたり考えたりしながら、よりよい考えをつくり出したり、自分の考えに生かしたりできるようにします。(認め合う⇒生かす⇒共につくり上げる)
・旭中学校併設型小学校として、学習・生活の両面で中学校とのつながりや関わりを大切に教育活動を行います。
・主体的、対話的に学ぶ、子どもが主役の授業づくりを推進します。
・お互いに認め合いながら、共に伸びていこうとする態度の育成を図ります。
・地域の「ひと・もの・こと」とのつながりを意識し、地域に生きる思いや態度を育てます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業づくり), 具体的取組 (1)子どもが自ら調べたいくなる、考えたいくなる、話したいくなる課題の設定や展開の工夫をする。(2)誰もが安心して学ぶことのできるよう、ペアや小グループでの話し合いを大切に授業展開を行う。(3)各教科・領域で、身につけさせたい資質・能力を意識した授業力の向上を目指す。(4)昨年度に発掘した魅力的な地域の材を共有し、各教科・領域の学習で活用していく。

学力向上に関わる本校の状況
○令和4年度の全国学習状況調査(6年)
図表: 児童学力 (読書理解、算数、理科、国語、英語、道徳、総合的な学習の時間)
①学力②学習に関する興味・関心③規範意識と自己有用感④生活習慣と学習習慣の全ての項目で平均値を上回っている。
○話し合い活動に関する児童アンケートの結果
表: 話し合い活動に関する児童アンケートの結果 (A, B)

今年度の目標
子ども達が互いの考えを生かすことができる授業づくりを行う
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
○昨年度の授業実践を成果と課題をもとにして、子ども達が互いの意見を「活かす」姿について職員で共有する。
○小中合同研修会やの授業研究会を通して、職員が小中授業コンセプトについて共有するとともに、授業の中でペアやグループ活動を意図的・計画的に行う。
○子どもたちの実態把握(自分の意見を言う、人の意見を自分に取り入れようとしている等)丁寧に行い、職員同士での児童に関する情報交換を密に行いながら日々の授業に活かしていく。
○子ども達が自分の意見を持ち、より主体的な学びを実現できるよう、昨年度の「総合的な学習の時間」における子ども達の経験を考慮し、より深く体験的な学習になるよう学習計画を立てる。
○ICTを有効に活用し、より実践的な子ども達への支援に役立てると共に、五感を使った体験的な活動も大切にしている。
下半期
○上半期の授業実践を通して、子ども達が互いに「活かす」具体的な姿について職員で改めて共有し、次年度の「共につくり上げる」姿についても検討を行う。
○子どもたちの実態把握(自分の意見を言う、人の意見を自分に取り入れようとしている等)丁寧に行い、職員同士での児童に関する情報交換を密に行いながら日々の授業に活かしていく。
○子ども達がより主体的な学びを実現できるよう、授業づくり部が中心となって、上半期に立てた「総合的な学習の時間」の計画について見直し、思いに沿った活動になるよう展開を工夫する。
○ICTを有効に活用し、より実践的な子ども達への支援に役立てると共に、五感を使った体験的な活動も大切にしている。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心), 具体的取組 (1)ペア活動・たてわり活動での異学年交流を通じて、相手を思いやる心を育てる。(2)音楽活動や学校行事等を通じて、友達と同じ目標に向かう良さを実感できるようにする。(3)子どもたちが個性を認め合いながら、居心地の良い学級・学校づくりを目指すようにする。(4)地域や関係機関との「ひと・もの・こと」とかかわり合いながら活動する良さを実感できるようにする。

豊かな心に関わる本校の状況
表: 豊かな心に関わる本校の状況 (質, 量, A, B, C, D)
○友だちと意見を交わしながら認め合ったり、学校行事や体験的な活動を通して共通の目標に向かって高め合ったりすることのよさを実感できる機会が増えたことが影響しているのではないかと考えている。
○活動の制限が緩和されたことで、話し合い活動を通して自分の考えを伝え、相手の思いを受け止めたり積極的に関わり合いをもととする姿が見られた。
○学習の中で、地域との関りをもち自分だけではなく身近な人や地域の人の思いにふれ、大切にしようとする気持ちが高まってきた。
・関わり合いは増えてきたが、自分の気持ちを相手に分かりやすく伝えたり、それぞれのよさを認め、協働していこうとする姿勢にまだ、弱さが見られる。
(令和4年度 学校評価アンケートより)

今年度の目標
自分もみんなも大切にする心や繋がろうとする気持ちを育てる
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
○年度初めの環境に緩やかな学校生活を送れるようなスタートプログラムの趣旨を共通理解し、つながりを感じる横浜プログラム(YP)から取り組む。
○横浜子ども会議の取組に向けて、児童の委員会活動と繋げて、子どもが主体的に取り組めるようにする。
○YPアセスメント1回目の実施と社会スキルの設定する。
○年間を見通した社会スキルの設定を学年で組織的に取り組む。
○学校生活についてのアンケートを行い、1回目の子どもとの教育相談を実施することで、より細かく様子を見とる。
○人権研修を設定し、教職員の人権意識を高める。
○たてわり活動で、異学年交流でかかわり合うよさを感じさせる。
○学援隊の方々を全校児童に紹介し、地域への愛着を高める。
下半期
○横浜子ども会議の取組の中間点で振り返る。改善や修正案を全校児童に投げかけていく。
○YPアセスメント2回目の実施。個人プロフィール票を活用した児童理解を深める。
○児童生徒交流会で小中学校の子どもたちがかかわり合えるようにする。
○運動会、音楽集会に向けて、学年等で子どもたちが同じ目標に向けて取り組む良さを感じ合い「ひびきあい」を実感できるようにする。
○人権週間を設定し、日常のテーマに即した切実感のある話題から、人権意識を高める。
○全市一斉のアンケートを実施し、2回目の子どもとの教育相談を実施する。
○子どもたちの自己肯定感や友だち同士のつながりについての意識についてアンケートを実施、次年度への方針に生かせるようにする。
○地域の方への感謝を伝える活動を設定する。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体), 具体的取組 (1)「食」の大切さや、食に関する興味・関心を高める食育の推進を行う。(2)元気アップタイムや学校保健委員会の取組を通して自己の健康に対する意識の向上を目指す。(3)身につけさせたい資質・能力の向上を図るための体育科学習を充実させる。(4)運動委員会や集会委員会による取組や集会活動による健康体力の向上を目指す。

健やかな体に関わる本校の状況
令和4年度
図表: 体力・運動能力 (5年, 6年)
生活実態 (5年, 6年)
○体力や生活実態については、どの学年も市の平均と同等か、それ以上である。
○立ち幅跳び、反復横跳び、ボール投の数値は平均並みか、それ以下の学年もある。(新体力テスト結果より)
○朝食は9割程度の児童が毎朝とっている。(R4学状・体力テストより)
○睡眠時間は、8割以上の児童が毎日8時間以上とっている。(R4学状より)
○学年が上がるにつれて、ゲームやスマホ、パソコンを長時間視聴している児童の割合が増加している。

今年度の目標
よりよい生活習慣の重要性や運動習慣の必要性について理解を深め、実践しようとする態度を育てる
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
○食事を大切にする意識を高めるため、給食を「生きた教材」として扱い、ばくばくだりなどを通して食品の種類や特徴、栄養バランスのとれた食事などについて指導する。
○自らの健康課題に気づけるよう、月ごとに異なるテーマを設定した健康教育「元気アップタイム」を実施する。
○自らの健康に必要な食品への理解を深めるため、本校の残食の多い食品である「野菜」をテーマに、学校保健委員会を実施する。
○新体力テストの過去の記録を提示し、児童自身が結果を比較することで自分の体力や健康へ意識を向ける。
○運動委員会を中心にした活動への取組を行い、体力の向上に努める。
○室外、室内でできる「体づくり」を学級で取り入れ、継続的に体を動かす時間を設ける。
○手洗いを徹底し、感染症の予防を図るとともに全校児童で縄跳びや持久走に取り組み、健康・体力の向上を図る。
下半期
○自己の健康に対する意識や健康的な生活を送ろうとする態度を育てるため、元気アップタイムや学校保健委員会等で学習した内容を日々の生活や給食時間の指導に取り入れ、年間を通し繰り返し呼びかける。
○子どもたちが主体的に取り組めるよう、児童委員会による発信等の活動を元気アップタイムに取り入れる。
○運動委員会を中心にした活動への取組を行い、体力の向上に努める。
○室外、室内でできる「体づくり」を学級で取り入れ、継続的に体を動かす時間を設ける。
○手洗いを徹底し、感染症の予防を図るとともに全校児童で縄跳びや持久走に取り組み、健康・体力の向上を図る。